

講師：ヘネシー・澄子氏
(社会福祉学博士)

愛着の絆を結ぶために

～わが子にあげたい「一生の幸福の鍵」～

子どもが心身ともに健やかに育つために一番大切なもの。それは、親(養育者)と子の“愛着の絆”(基本的信頼関係)ではないでしょうか。この子どもであっても、大人であっても、親になっても、自分の親との関係に悩む人も多いと思います。愛着の大切さに気づくことで、子どもとの関係が良くなる。愛着の絆は、何歳になっても築き直せるのだそうです。「愛着の絆」、「愛着障がい」について深い造詣をお持ちで、その治療法の普及に努めておられるヘネシー・澄子氏をお迎えしての講演会です。

愛着(基本的信頼関係)は、どうやって築かれていくのか? また、愛着が形成されていく時の脳の活動はどうなっているのか? …などなど、プレママ、プレパパ、パパ、ママ、おじいちゃま、おばあちゃま、お子さんを見守って下さっているご近所の方も、是非、一緒に学んでみませんか?

「愛着(アタッチメント)」については、裏面をご参照ください。



日時：2012年 1月25日(水) 10時～12時(受付開始9時30分)

場所：長野県松本勤労者福祉会館 2階会議室

(松本中央4丁目7番26号 Tel: 35-6286)

講師：ヘネシー・澄子氏

参加費：500円(資料代として) *できるだけお釣りのないようお願い致します。

連絡先：主催「子どもの心身共に健康な成長を願う親の会」

Tell&Fax: 0263-33-7257 携帯: 090-7814-3053 (野見山)

e-mail : oyanokai-matsumoto@mbr.nifty.com

【講師プロフィール】

米国コロラド州在住。臨床ソーシャルワーカー。社会福祉学博士。コロラド州デンバー大学で博士号を取得し、ニューヨーク大学社会福祉大学院助教授を経て、コロラド州社会福祉局社会福祉部長など歴任、アジア太平洋人精神保健センターを創設。平成12～16年、東京福祉大学実習担当教授として来日し教鞭をとりつつ、日本各地で福祉の他分野に渡る講演や、事例研修会を行い、平成16年3月大学を退職して帰米。夫とクロスロード・フォー・ソーシャルワークを立上げ、日本の児童福祉に携わる人達の研修を日・米両国で行っている。平成17年4月より東京福祉大学名誉教授、19年より関西学院大学客員教授を務める。著書に反応性愛着しょうがいを書いた「子を愛せない母・母を拒否する子」、子どもとトラウマについて書いた「気になる子 理解できる ケアできる」(共に学習研究社)がある。

【後援：松本市 松本市教育委員会、信州大学医学部保健学科・小児科・産婦人科・衛生学公衆衛生学講座】

【協力：同窓サークル、つくしの会、ながの子どもの健やかな成長を願うネットワーク】

愛着(アタッチメント)の絆とは・・・



ジョン・ボウルヴィ(イギリスの医師であり母子間の絆研究の開拓者)の説によると、『赤ちゃん(養育者)といった、特定の人との間に築かれる“基本的信頼の絆”』のことだそうです。

安定した愛着形成のできた子どもは、「親(養育者)は、温かく、不安な時や困った時に助けてくれる安全基地であると認識し、そうしてもらえ自分は価値がある」といった感覚を持てるようになります。

後には、このモデルを親(養育者)以外の他者との関係に用いやすく、そのように期待して行動するようになるそうです。



ご参考までに・・・

☆アメリカの心理学者、アブラハム・マズローが提唱した欲求段階説☆

人間の欲求はピラミッド状の5つの段階になっており、底辺から始まり、1段階目の欲求が満たされると、もう1段階上の欲求へと徐々に満たされていくように動機付けられている、とされています。

人間の欲求の段階は、底辺から、

(1) 生理的欲求

食や睡眠、排泄といった生存のための欲求

(2) 安全の欲求

住居や衣服など自分の身を守る、不安を取り除き安定したいなどの欲求

(3) 社会的欲求

他者と関わりたい、同じようにしたいという帰属欲求と、愛されたいという愛情の欲求

(4) 自我・自尊の欲求

尊敬されたい、認められたいといった欲求

(5) 自己実現の欲求

自分の能力や可能性を発揮し、自分を向上させたい、充実した人生を送りたいといった欲求



マズローの欲求段階説

となります。

